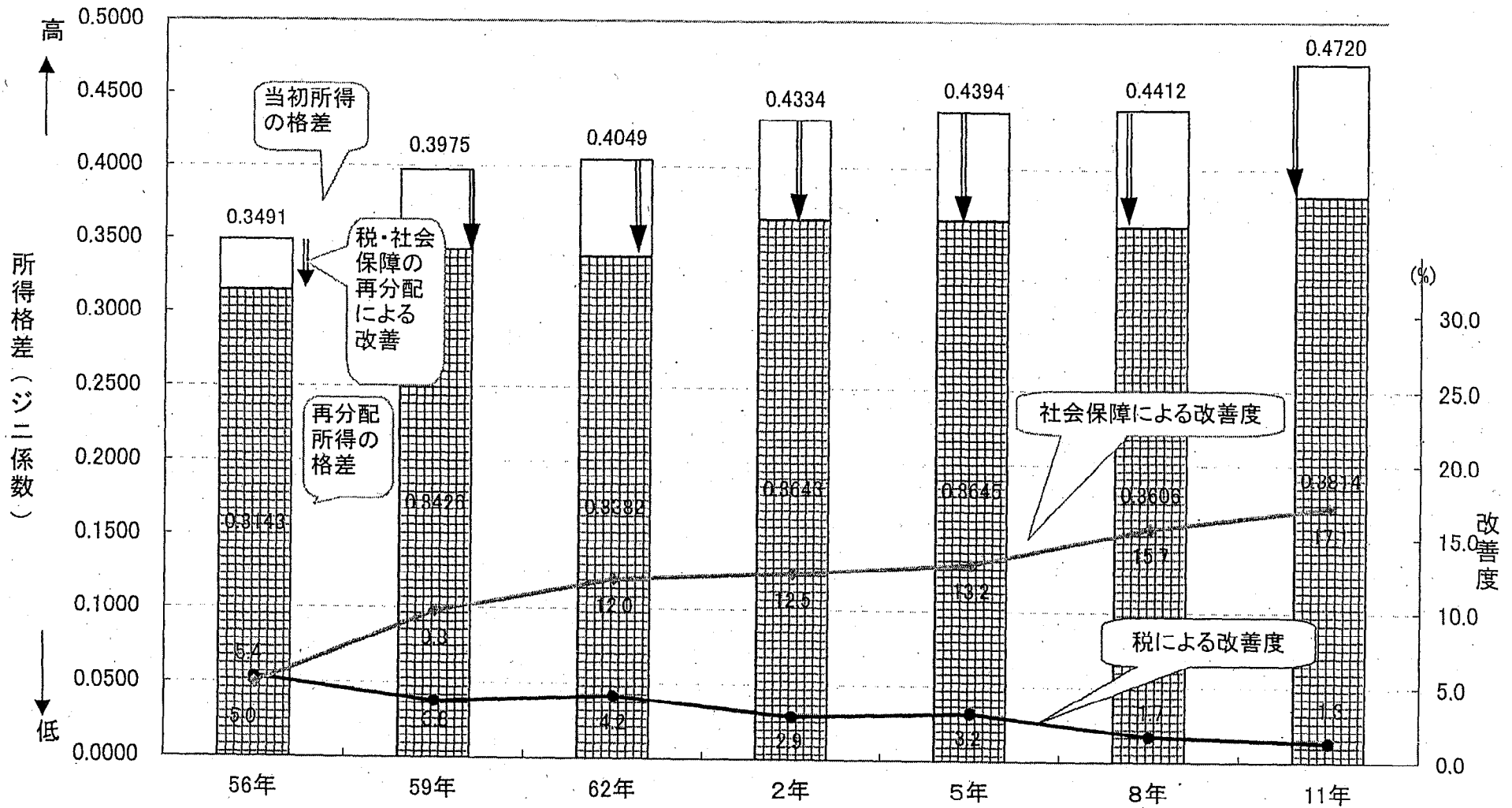


# 社会保障の所得再分配効果

○ 所得格差は拡大する傾向にあるが、税・社会保障を通じた再分配が機能  
 ○ 近年、税による再分配効果は低下してきている一方、年金の成熟化等に伴い社会保障による再分配効果が上昇

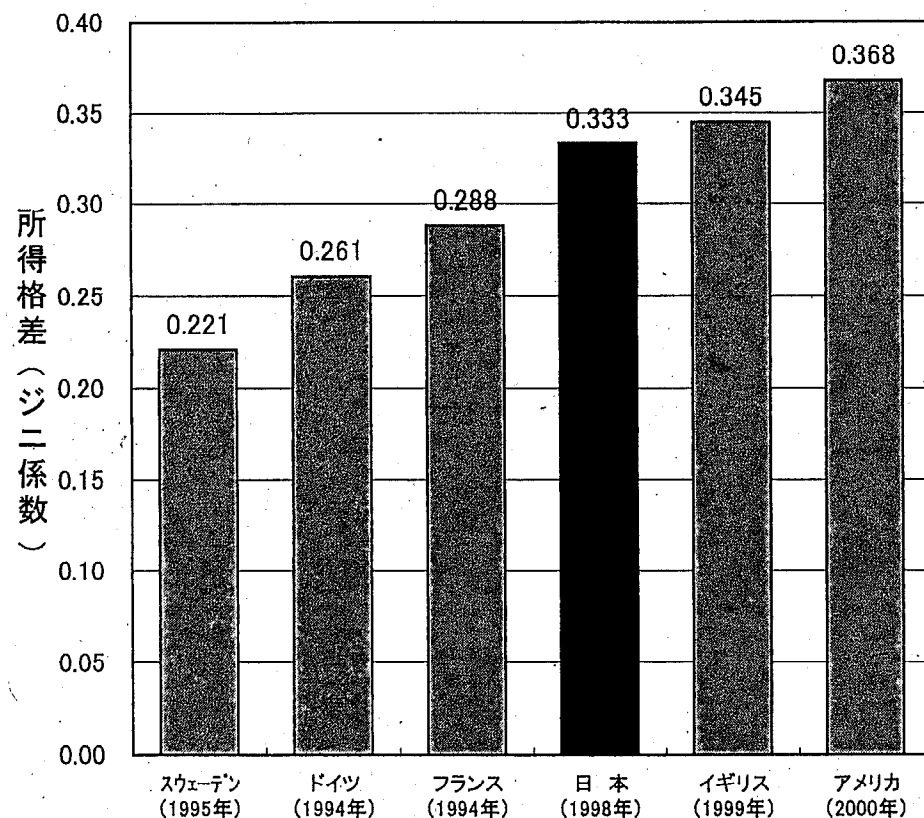


資料：厚生労働省政策統括官付政策評価官室「平成11年度所得再分配調査」

## 所得再分配効果の国際比較

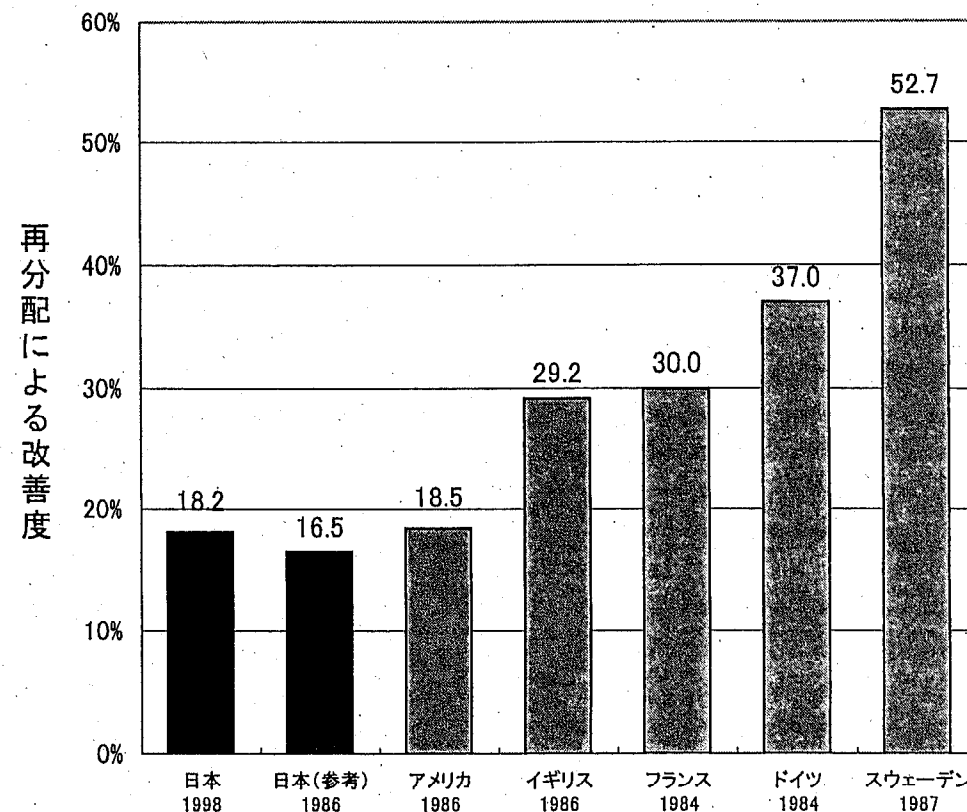
○ 我が国の所得再分配後の所得格差は国際的にみれば中程度であるが、社会保障・税による再分配効果は大きくなってきているものの、欧州諸国と比較すると必ずしも大きなものとはなっていない。

再分配後の所得格差の国際比較



資料: 日本以外についてはLuxemburg Income Study  
日本については所得再分配調査を再集計したもの

所得再分配効果(税・社会保障)の国際比較



- (注) 1. 等価再分配所得でみたジニ係数の改善度を比較したもの  
2. 1998年の日本は「所得再分配調査」(厚生労働省政策統括官付政策評価官室)の結果を再集計して作成  
3. 1986年の日本は「所得再分配調査」に基づく世帯ベースの再分配所得の改善度  
4. 日本以外は「日本の所得格差—国際比較の視点から—」(平成10年1月、経済企画庁経済研究所編)を参照

## 社会保険方式について

- ・ 社会保険方式は、個人が保険料を拠出する形で、将来の生活困難リスク（所得喪失、医療・介護ニーズの発生）に対する「事前の備え」を相互扶助により行う仕組みであり、あらかじめリスクに備えるという予防的性格を持つ。また、それは自立した個人による自助努力を前提にいわば「自助を共同化した」仕組み（共助）といえる。
- ・ また、社会保険方式は原則「拠出なくして給付はない」「拠出に応じて給付がなされる」仕組みであり、給付と負担が連動することから、そのバランスを踏まえ国民が給付と負担を選択できる。さらに、一旦拠出された保険料は給付の根拠となり、給付はその負担に基づく権利として確定されることから、国民に安心感を与え、負担に対する理解を得やすいことを特徴として挙げることができる。

「21世紀に向けての社会保障」より

（平成12年10月 社会保障構造の在り方について考える有識者会議）